

行事／取組名称	物理オリンピックや数学オリンピックを体験しよう		
担当者	近藤泰洋（JPhO）他 2 名（数学オリンピック担当者、JST 理数学習推進部）		
開催日時・期間	平成 29 年 7 月 16 日 9 時～15 時	会場	東北大学川内キャンパス
主 催	Natural science	後援	文部科学省他多数
共 催	東北大学、物理オリンピック日本委員会他多数		
協 賛			
概要			
毎年 Natural science 主催で開催されるサイエンスデーに 2014 年から参加、昨年は数学オリンピック財団と共同で、今年は数学オリンピック財団、JST 理数学習推進部と共同で参加した。今年は物理、数学の他に化学、生物、地学、情報の各科学オリンピックに関するパンフレット、紹介ビデオなどの展示を行った。物理では今年迄の物理チャレンジの資料と昨年の物理第 2 チャレンジ実験セットを置き、来場者に実験を紹介した。来場者は保護者同伴の小学生から高校生、中高教員などで、科学オリンピックに関する関心を高めた。なお、来場者の数は記録してありませんが、小学生が多数、中高生は数十名でした。			
参加者	教員	高校生	中学生

報告事項 1
仙台では毎年 natural science 主催でサイエンスデーという科学関連の体験型科学イベントが 2007 年以来開かれている。物理オリンピック日本委員会は 2014 年以来参加、物理チャレンジの紹介を主として行ってきた。昨年からは数学オリンピック財団と共同で物理と数学オリンピックの紹介を行い、今年は更に JST の援助もあり、生物、化学、地学、情報の各科学オリンピックの紹介も行った。物理オリンピックに関しては、これまでの物理オリンピックの成果、第 2 チャレンジをビデオで紹介し、第 1、第 2 チャレンジの問題展示を行った。また、昨年の第 2 チャレンジ実験セットを置き、参加者に自らセットに触り、実験を行うよう案内、指導した。中高生は内容を理解して、実験した参加者が多かった。小学生には難しく、理解には至らなかったが、保護者と一緒に実験してもらい、むしろ保護者が大いに興味を持ち実験を楽しんだようである。このことは将来、子供たちが物理チャレンジや他の科学オリンピックに参加するきっかけとなると考えられる。特に興味を持った参加者には過去の第 1 チャレンジ問題（2017 年も含めて）を配布したが、来年の参加を期待できると思われる。 なお、昨年のサイエンスデーで、物理と数学オリンピックを知り、今年も再来場、来年は科学オリンピックに挑戦するという参加者も数名いたので、今後はなるべく多くの科学オリンピック担当部と共同での開催を計画したい。

